

事業番号	事務事業名	発達障害者支援事業費	所管課名	保健福祉課	令和 2 年度課長名	水島 剛
01396	政策名	1	こころあたたかい福祉の里づくり	係名	福祉係	担当者・シート作成者
	施策名	15	障害者(児)福祉の推進	根拠法令等	岡山県発達障害者支援体制整備事業実施要綱 鏡野町発達障害者支援体制整備事業実施要綱	

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (      年度～      年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	(1) 発達障害支援コーディネーターの配置 (2) 連絡調整会議の設置 (3) 個別支援計画の作成 (4) 関係者の研修等の実施	自閉症、アスペルガー症候群等の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害等の発達障害を有する障害児(者)について、乳幼児期から成人期までの各ライフステージに対応する一貫した支援体制の整備を図る

2. 事務事業の対象・意図・活動・成果指標

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	30 年度	1 年度	2 年度	3 年度	4 年度
ア 障害福祉サービスを希望する障害者	ア 発達障害の診断がある人	人	見込 実績	20 35	50 70	80 93	100	100
イ	イ 発達障害の疑いのある人	人	見込 実績	70 88	100 163	180 209	200	220
ウ	ウ		見込 実績					

②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	30 年度	1 年度	2 年度	3 年度	4 年度
ア 地域(在宅)で生活してもらう	ア 相談・支援を実施した件数 (1対1面談)	件	目標 実績 達成率	400 428 107.0%	700 144 20.6%	700 91 13.0%	160	160 56.9%
イ	イ 連絡・調整を行った会議の開催数 (3者以上の複数面談)	回	目標 実績 達成率	150 338 225.3%	150 767 511.3%	150 880 586.7%	780	780 112.8%
ウ	ウ		目標 実績 達成率					

③主な活動内容	⑥活動指標	単位	区分	30 年度	1 年度	2 年度	3 年度	4 年度
ア 個別支援計画の作成	ア 計画書を作成した件数	件	目標 実績 達成率	50 65 130.0%	50 73 146.0%	50 81 162.0%	50	50 162.0%
イ	イ		目標 実績 達成率					
ウ	ウ		目標 実績 達成率					

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 03		項 01		目 03		大事業 中事業					事業番号
	一般会計		民生費		社会福祉費		障害者福祉費		27	01	発達障害者支援事業費			
30 年度 実績	1 年度 実績	2 年度 実績	3 年度 見込	4 年度 見込	前年比	決算 (千円)	30 年度 実績	1 年度 実績	2 年度 実績	3 年度 見込	4 年度 見込	前年比		
国庫支出金						国庫支出金								
県支出金						県支出金								
町 債						町 債								
その他特財						その他特財								
一般財源	747	701	922	689	689	221	一般財源	603	517	701	689	689	184	
合計	747	701	922	689	689	221	合計(A)	603	517	701	689	689	184	

財源名称	従事正職員人数		1	1	1	1	1			
	延べ業務事務時間		160	160	160	160	160			
	人件費計(千円)(B)		541	560	535	536	536			
	最終予算額	922 千円	予算執行率	76.0%	トータルコスト(A+B)	1,144	1,077	1,236	1,225	1,225

主な 支出事業内容 (予 算)	旅費	100 千円	主な 支出事業内容 (決 算)	旅費	4 千円
	需用費	395 千円		需用費	300 千円
	委託料	150 千円		委託料	120 千円
	使用料及び賃借料	277 千円		使用料及び賃借料	277 千円

#### 4. 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
相談件数は年々増加。中、高校生や成人の相談が増えており、発達支援対象の年齢層が上がってきている。また、放課後児童クラブなど支援の場も広がっている。
② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯
相談数の増加に対し、町SSWや理学療法士と連携して巡回相談を行うなど、多職種で役割分担して対応するようにしている。
③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか?
マンパワー不足が課題。国の補助金などを利用し、増員を検討中。

#### 5. 事業評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性(この事務事業の目的は町の政策体系に結びついているか? 意図することが結果に結びついているか?)		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	理由 説明	発達障害の早期支援は、安心して子育てを行うことにつながる。また、多様化する障害者ニーズに対する支援の充実にもつながることから、障害福祉の推進になる。
	② 町が関与する妥当性(この事業は町が行わなければならないものか? 税金を投入して行うべき事業か? 住民や地域民間等に任せることはできないか?)		
<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある <input type="checkbox"/> 妥当である	理由 説明	発達障害の支援ニーズの高まりに合わせて、民間の支援機関と適切に連携ができれば、マンパワー不足が解消でき、支援の幅や質を高められると思われる。	
③ 対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地はないか?)			
<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある <input type="checkbox"/> 適切である	理由 説明	これまでは、幼少期の子どもを対象にすることが多かったが、最近は成人の就労支援やひきこもり支援など、支援対象者の年齢層が高くなっている。支援ニーズの変化に応じて、支援体制の見直しは必要。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地(成果向上の余地はないか? 成果を向上させる有効な手段はないか? 何が原因で成果が向上しないのか?)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 目標水準に達している	理由 説明	成人期の発達支援ニーズ(就労支援、ひきこもり支援)に対応するための、知識やスキルの向上が求められる。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は? 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか?)		
<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある	理由 説明	鏡野町では、行政が中心となって発達障害者支援に取り組んでいるため、この事業を廃止すると、町内の支援体制が機能しなくなる。	
⑥ 方法・手段の改善余地(やり方等を改善して成果をより向上させることはできないか?)			
<input checked="" type="checkbox"/> 改善余地がある <input type="checkbox"/> 改善余地がない	理由 説明	民間の支援機関との専門職と連携することで、マンパワー不足に対応できると考える。	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか?)		
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由 説明	
⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方を見直しや民間委託などでコスト削減できないか?)			
<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由 説明		
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか? 受益者負担は公平・公正となっているか?)		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	理由 説明	

#### 6. 事業評価の総括と今後の方向性

① 上記の評価結果		② 全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																							
A 目的妥当性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地あり	発達障害者支援体制整備事業は、子育て支援の充実や障害福祉の推進につながる重要な取り組みととらえている。ただし、相談件数の増加や支援ニーズの変化に応じて、マンパワー不足が深刻。民間と連携し、業務を行っていく必要がある。																							
B 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
③ 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		④ 担当課としての事業の方針																							
<input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input checked="" type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了	今後の改革改善案 ・発達支援Coの増員(国の補助金の活用) ・他職種との連携(役割分担の整理) ・放課後児童クラブへの巡回相談		<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上			○	維持					低下			
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上			○																					
	維持																								
	低下																								
⑤ 改革改善案を実施する上で解決すべき課題																									

(廃止・休止・事業完了の場合は記入不要)